

平成 21 年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書		提出日 2010 年 9 月 17 日
氏名： 橋本豊彦	実施国：タイ	海外での研修
(1) 計画通りに実施されましたか？運営面・経理面での変更点はありましたか？		
計画通りに実施中。2011年3月修了予定。		
(2) 実施の結果（良かった点、反省点を含めて）		
<p>選択したコース、Graduate School of Development Communication が ここタイの当大学院とフィリピンのフィリピン大学ロスバニョス校にしかなく、途上国での大学院教育にいくばくかの不安があったが理論と実践をバランスよく組み込んだコース内容、タイの開発分野の第一線で活躍する教授陣と世界各国からの客員教授、多国籍なクラスメート（タイ、インドネシア、エチオピア、日本）との共同プロジェクトなど、学習環境には大変満足している。</p>		
(3) 異国の参加者同士または本人が相互理解を深めたと確信できた場面は？ または実施事業に対する一般の反響は？「協力活動」「調査研究」「海外での研修」		
<p>当コースは開発分野でどのようにメディアを活用していくか、援助対象者とどのように関係を築いていくかに重点を置いている。一般に日本の ODA に関してはポジティブな意見が多いと感じた。当大学院にはアジア、アフリカ諸国からの公費留学生が多いが、皆 JICA の存在とその活動領域をよく把握している。ただしタイ人学生には JICA の存在すら知らない人がほとんどだった。これは留学生は政府関係者が多いのに対し、タイ人学生は一般人であることに起因していると思われる。中国の影響力が高まる中（アフリカでは中国の援助姿勢に好意的であることに気づいた）、いかに効果的に情報発信していくかが今後の日本の開発援助に求められていると感じた。留学生との対話の中で日本の援助は技術力ではトップレベルだが、被益者に対する技術移転と広報に改善の余地があると思われる。</p>		